

紀見峠越え



長岡京時代の南海道

長岡京は延暦3年(784)に平城京から移った都で延暦13年(794)に平安京に移るまで京都府向日市・長岡京市・京都市南部に京都ができていました。

長岡京時代の南海道は山崎駅(京都府大山崎町)で淀川を渡り、そこから東高野街道(河内長野市で西高野街道と合流し高野街道の名称となります)を南へ進み、紀見峠を越えて橋本市で奈良時代の紀の川北岸の南海道へと通じていました。

弘仁2年(811)に萩原・名草・賀太の三つの駅が廃止されていますからその時まで、紀見峠を越える南海道が存在したのでしょう。

慈尊院

空海の母が没した地と伝えられ、空海はその廟所に弥勒菩薩像を安置したとされています。「女人高野」ともいわれ、有吉佐和子の小説「紀ノ川」にも安産祈願の乳形を奉納する寺として描かれており、現在もその信仰は続いています。

慈尊院は空海が高野山を開山したおり、山麓の拠点として開かれ、以来高野山の発展とともに整備されてきました。別に「高野政所」とも呼ばれ、高野山が持っていた寺領の支配拠点でした。

寺院内の弥勒堂(国重文)は鎌倉～室町時代の建築で中に木造弥勒座像(国宝)が安置されています。

なお、弥勒堂は文明年間(1469～87)に水害を予測して、現在紀の川河川敷となっている嵯峨浜北方付近から堂のみを現在地に移したと伝えられています。

築地堀(県指定文化財)は文明年間に移転後に築造されたもので北門(県指定文化財)とともに「高野政所」存在当時の形式を残しています。寺内では、寛永元(1624)再建の多宝塔(県指定文化財)があります。

高野山への道

高野山は和歌山県高野町にある山で弘仁7年(816)に空海が嵯峨天皇の許可を得て道場と僧房をはじめ堂塔を建て(最初は山全体が金剛峯寺と呼ばれていました)以来、真言宗の本拠地として栄えています。

高野山への参詣の契機は平安時代中頃からの摂関家・王家の参詣です。

京都(当時は平安京)からの参詣のルートは、摂関全盛期には「和泉路」、白河院政期には「大和路」、鳥羽・後白河院政期には「河内路」がそれぞれ多く採用されていたことが知られています。

和泉路は大阪府南部では熊野街道(現在は熊野古道と称されています)を南下して雄ノ山峠を越えて紀の川筋に達するルートです。和泉路は平安時代の南海道を歩き、紀の川筋では埴前(吐前)から船で紀の川を遡り、高野政所のあった慈尊院から山に上っています。

大和路は大和盆地のほぼ中央を貫く「下ツ道」を南下して吉野川・紀の川筋に達するルートで奈良時代の南海道を歩いています。

河内路は堺市までは熊野街道を南下しますが、そこから南東に西高野街道を進み、河内長野市で東高野街道と合流して、紀見峠を越えて、高野政所に至るルートで、長岡京時代の南海道が使用されています。

高野七口

庶民の高野山参詣は中世から盛んになりますが、参詣者が巡った高野山への道で、主な七つの道(黒河道、高野街道(京街道とも呼ばれています)、町石道(麻生津道が途中で合流)、有田・龍神道、相ノ浦道、熊野古道小辺路、大峰道)が高野七口と呼ばれています。

その名前は戦国時代頃からはじまったようです。ウォークコースでは、黒河道、高野街道(京街道とも呼ばれています)、町石道(麻生津道が途中で合流)へ入り口を紹介しています。

丹生都比売神社

神社の祭神は丹生都比売神といえます。丹生都比売神は神功皇后が新羅に出兵した際に皇后にお告げを与えました。それにより呪術力のある赤土を得た皇后は勝利したので、「紀伊国管川藤代之峯」(現高野町筒香)に鎮座という伝承が残されています。この赤土とは硫化水銀のことで、神社はこの採掘や生産にかかわる丹生氏の氏神としての性格や、筒香が丹生川の水源に当たることから水分の山神の性格が考えられます。

平安時代の文書では丹生都比売神はイザナミ・イザナギ両神の子で、天照大神の妹にあたり、「紀伊国伊都郡奄太石口」(現九度山町慈尊院)に降臨し、紀伊・大和両国に水田を開いた後に天野の里に鎮座したと伝えられています。

空海の高野山開創に伴って、丹生神は高野山との関係を深めていきました。10世紀頃成立の伝承では空海が丹生神から土地を譲られたとするものと、高野明神に高野山を案内され、そこで丹生神から土地を譲られたとするものがあります。

高野明神は狩場明神とも称し、丹生神の子どもになる神とされ、この神が獵師に姿をかえて白・黒2頭の犬を連れて空海を案内したとされています。2神が高野山の守り神として信仰され、のちに高野山を復興した雅真によって、天徳元年(957)に高野山に明神社(御社)が創建されました。

春日造の本殿(国重文)は、文明元年(1469)再建の2棟を中心に4棟が並び、二重入母屋造の楼門(国重文)は、明応8年(1499)に再建されたことが分かっています。

丹生官省符神社

慈尊院の石段を上り詰めた高台にあり、古くから慈尊院と一体となった神社で官省符荘の総氏神でした。神社本殿(国重文)は室町時代後期・末期の様式で、旧社地から移転した直後の面影を伝えています。